

New Faculty Member

共に学ぶ。新任教員の紹介



虫を自由自在にコントロールする

昆虫行動学者は、「なぜこんな不思議な行動を、この虫はするのだろうか」という謎に興味を持ちます。その行動のメカニズムや意味を理解したいと考えて、最終的には、思うがままに虫を操ることができたらなあ、と夢見ます。最近、特に光を利用して昆虫の行動を制御する新しい技術の確立と共に、昆虫を効率的に誘引する光捕虫器や、昆虫が集まりにくい低誘虫照明の製品化を進めています。

出身地:愛知県
趣味:淡水魚を飼育したり、葡萄を食べること。
尊敬する人物:恩師である昆虫生理学の故藤條純夫先生
最近ハマっていること:ガラス風鈴を集めることです。

Message for Students

研究はのめり込めばのめり込むほど、その奥深さに触れることができますよ。



自然を活用した持続可能な社会づくり

自然は私たちに様々な恵みをもたらします。きれいな水や大気、美しい風景や多様な食材、レジャーや癒し、人の営みや伝統文化。自然が持つ多面的な機能を活用して社会をより豊かし、持続的に自然環境と地域社会が守られる仕組みをつくるのが私の目標です。研究では、生態系を基盤とした防災・減災や社会資本整備(グリーンインフラ)、地域創生、生物多様性保全などに取り組んでいます。

Message for Students

よく学び、よく遊べ。今の選択と経験、そして失敗が、未来の自分を強くします。

出身地:福岡県 趣味:釣り、自然・まち歩き、家庭菜園
尊敬する人物:スティーブ・ジョブズ、手塚治虫、さだまさし
最近ハマっていること:白山を眺めること

環境科学科 緑地環境学研究室

上野 裕介 准教授



食品製造開発学分野の教員として

大学では、畜産製造学を専攻しました。食品企業で8年間、大豆たん白の利用開発を行いました。大学の教員として20年になりますが、大豆、米、麦といった農産物を中心として、食品の物性と構造の関係や食品成分のアレルギー抑制効果について研究してきました。近年、大豆の健康効果から豆乳の消費が伸びています。また、食物繊維の摂取不足が問題となっています。現在は、大豆や麦の健康効果を生かした食品の開発を目指しています。

出身地:福岡県 趣味:読書
尊敬する人物:恩師
最近ハマっていること:NMRについて勉強すること

Message for Students

興味がないと続きません。それを見つける努力をしてください。



食品科学科 食品製造開発学研究室

長野 隆男 教授



大腸菌の転写

生命現象の大部分はDNA配列によって規定されています。私は、大腸菌の転写をモデルとして、DNA配列のみによって生命現象を説明するような研究を行っています。特に、DNAのねじれ具合と転写の関係や人工的なプロモーターの開発に興味を持っています。最終的には転写制御を自由自在にデザインするシステムを構築したいです。

Message for Students

やりたいことだけを思い切りやって生きてください

出身地:東京都 趣味:溪流釣り、アメフト、柔道、筋トレ
尊敬する人物:魂をこめて頑張っている人
最近ハマっていること:ダンベルフライ

生物資源工学研究所 応用微生物学研究室

中川 明 講師



Campus Schedule

キャンパス スケジュール

7月 July 前期試験

8月 August 夏季休業・集中講義
オープンキャンパス

10月 October 後期授業開始
響緑祭(大学祭)



石川県立大学広報委員会

〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
Tel 076-227-7220 Fax 076-227-7410
E-mail jim@ishikawa-pu.ac.jp
http://www.ishikawa-pu.ac.jp/

最新情報は
ホームページから



今後のよりよい広報誌づくりのため
皆様のご意見をお聞かせください。

アンケートにお答えいただいた
皆様の中から抽選で「Chikuhu N
(チクハエヌ) 火入れ」750ml(1本)を
5名様にプレゼントいたします。

※アンケートは石川県立大学Webサイトにあるフォームからご回答ください。
締切:2017年8月11日(金) ※当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

石川県立大学の
学生(Nプロジェクト)
が作り出した!
能登産五百万石を
100%使った特別
純米です。



若者が能登も農業も日本酒も盛り上げる!

能登でお米をつくり、そのお米を使って能登で日本酒をつくる。
100%能登産の日本酒づくり!さらにそれを商品として売り出す!
これを学生が中心になって行います。そんな夢みたく活動をしているのがN-projectです。
石川県内の企業と連携しながら、能登・農業・日本酒のため、自分たちがやりたいこと・得意なことを生かしながら、大学の垣根を越えて日々活動しています。

能登に恋した「学生」が原料からつくる日本酒!

企業との連携はもちろん、他大学の学生とも力を合わせてつくります。だからメンバーの興味・関心は様々!農業・デザイン・地域活性・マーケティング・マネジメントetc...自分の知らない価値観に出会えます。そこが面白い!だからこそいろいろなアイデアが生まれ、相乗効果が生まれます!
この活動が能登・農業・日本酒の活性化につながるだけでなく、個人の成長にもつながっています。

きらり輝く人 N-project

左から
渡邊 瑛勇さん
早川 侑花さん
鶴貝 采映さん



INDEX

- きらり輝く人 1
- Special Feature 2
- 研究で身につけたチカラとは? 2
- Close Up Report 4
- SxT TALK! 5
- CAMPUS LIFE 6
- Community Contact Club Activities 7
- New Faculty Member Campus Schedule 8



問題点をよく見極めることが研究の第一歩

古賀 今日は私の研究室を巣立ったみなさんに、本学で学んで良かったことを聞いてみたいと思います。

宮下 石川県中能登農林総合事務所で農業従事者の方に栽培指導をしたり、産地の状況や課題を説明し、対策をサポートしたりする仕事をしています。大学で研究に取り組んだことで、課題の発見から解決策を導き出すまでの一連の流れを学ぶことができました。古賀先生からも常に疑問を持って物事を見るように



と指導されてきましたが、そういった物の見方も今の仕事で役立っていると実感します。

古賀 研究をするうえでは、何が問題点なのかをよく見極めることが大事です。その問題はどのような時に、どのようにして起きるのか?なぜ起きるのか?因果関係を推理することがとても大事です。次に、その推理が正しいことを証明するには、どのような実験をしたら良いかを考え、実行することが大事です。

植松 私は、大学で取り組んだ病害虫に関する研究をダイレクトに仕事に結びつけることができました。大学院では基礎研究が多かったのですが、仕事では応用が求められます。古賀先生には研究の出口のところまでご指導いただいたので、今の仕事に生きています。

研究も就職も、身近な先輩がきめ細かくアドバイス

古賀 卒業したばかりの2人はどうですか?

梅本 先輩方が研究されている様子を見て学び、ご指導もいただきました。宮下さんには実験指

導もしていただいて感謝しています。

鈴木 先輩方の発表の仕方が素晴らしいかったので、とても勉強になりました。スライドを作って、簡潔にわかりやすく喋るテクニックを見習いたいです。

古賀 学会での発表は、練習を重ねることとみんなで見学を見てアドバイスし合うことが大切。就職に関しても先輩たちに相談したのでは?

鈴木 そうですね。最初は、どんな仕事があるかもわからなかったですし、面接でどんな質問をされるのか、どのように答えたら良いのかもわかりませんでした。就職活動の際には先輩方からアドバイスをいただき、とても助かりました。

研究の醍醐味は、最終的に感動にたどり着くこと

古賀 みなさんは、研究のどんな点にやりがいを感じましたか?

宮下 世界中で誰も取り組んでいないことを研究し、自分が最初の発見者になれること。論文を書いて公開できたことは本当にうれしいです。

鈴木 3年生までは、ミクロの世界といっても光学顕微鏡で10倍、20倍に見る程度の世界しか知らなかったわけですが、研究室では電子顕微鏡を使って何千倍、何万倍の世界を見ることができて楽しかったです。

梅本 電子顕微鏡での観察は本当に楽しくて、私も一日中見ても飽きないほどでした。

古賀 最大50万倍まで見られる電子顕微鏡を使って細胞の中の構造を見ると、光学顕微鏡で見える世界とは全く違う世界が見えて感動しますね。私は、研究に大事なものは最終的には感動することだと思います。ありのままの自然は本当に素晴らしい。そういう感動に行き着くことが、研究の醍醐味だと思っています。

問題解決のプロセスがわかると新しい分野にも挑戦できる

古賀 梅本さんと鈴木さんは、4月から就職ですね。
梅本 石川の農業に携わっている人を支えていきたいです。

鈴木 研究では、いろいろな失敗をして、その原因を考えてきましたが、社会に出ていろいろなことに直面すると思います。その度にさまざまな方向から考えて乗り越えていきたいです。

古賀 研究と社会での仕事は違いますが、研究をするうえでは、私はどれだけ失敗してもいいと思います。やらないで後悔するのではなく、失敗を重ねて、その原因を探り続けていると、それが積み重なって自信になります。みなさんは、研究を通して問題の発見から解決までのプロセスを学んできました。そうすると、この先どんな所に行ってもやっていけます。

宮下 仕事では、自分が知っていることばかりではなく、知らない分野のことにたくさん出会います。でも、その都度新しい分野のことを学んでいけばいいんです。

植松 自分の軸みたいなのはしっかりあったうえで、ですね。

古賀 私自身も、センチュウの研究は最近になってから始めました。でも、やっていくとなんとかなる。



先生と学生の距離が近いから手厚い指導が受けられる

古賀 本学では、卒業研究の指導は教員1人に対して学生は1人~多くても3人。ほとんどマンツーマンの指導です。

植松 先生と学生の距離が近くて、恵まれた環境ですよ。

梅本 研究に関して、わからないことはすぐに先生に質問できましたね。

古賀 電子顕微鏡で試料を作成する時も、きめ細かく指導をしないと失敗してしまうので、教える側としても少人数の方が良い。私はもともと農林水産省にいましたが、県立大学で学生に教える立場になり、教育っていいなあと思いました。人を育てているようで、実は本人が育っていく手伝いをしているだけ。みなさんの成長に少しでも貢献できて良かったです。ここで学んだ学生が巣立ち、人として成長している様子を見届けることができて、素晴らしい職業だと思っています。

学会発表で学んだことは社会に出ても役立っていく

古賀 学生時代は、人として大きく成長する時期だと思いますが、研究論文をいくつか書くと一人前になります。宮下さんは、博士課程に進んで日本語での論文を5報、英語の論文を2報書き、自分の軸を持って緻密な研究を行いました。もう研究者として世界に通用します。植松君は、英語の論文も書いていますし、もう少し訓練すると国際的に通用するようになるでしょう。大学院で研究するはずいぶん成長します。宮下さんも植松君も、発表や説明の時は声がよく通っていてとても聞きやすく、聞き手は一言ひとこと納得して聞きながら聞いてまいります。本当に上手で感心しました。

植松 学生の頃は自分が発表した後に質問されることが怖かったのですが、今は発表した後に何も質問がないと寂しいです。

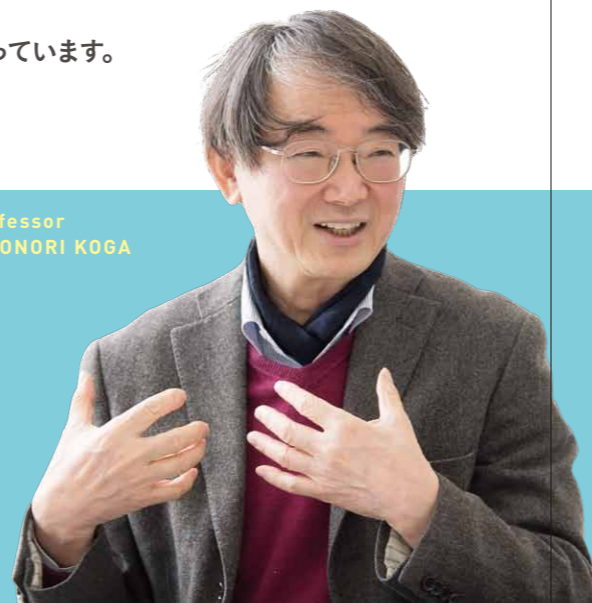
古賀 学会発表が一番つまらないのは質問がないこと。良い発表をすると質問が多いです。まず内容が理解されないと質問が生まれなし、内容が面白くないと質問してもらえません。

植松 古賀先生の研究室では、学部の頃から学会に連れて行ってもらいました。

古賀 鈴木さんも梅本さんも、4年生の時に日本線虫学会で学会発表を経験しました。学会に出ると、度胸がきます。それを学生のうちに経験できたのはとても有意義なことだったと思いますね。

研究で身につけたチカラとは?

少人数教育を重視する石川県立大学には、のびのびと研究に打ち込める環境が整っています。生産科学科の古賀博則先生の研究室を巣立ったみなさんに、県立大で学び得たことを振り返っていただきました。



Professor HIRONORI KOGA



SHIGERU UEMATSU



NAO MIYASHITA



SAEKO UMEMOTO



YURI SUZUKI

古賀 博則 客員教授 HIRONORI KOGA PROFILE

1979年、京都大学農学部大学院農林生物学専攻博士課程中退、農林水産省に入省。1998年、石川県農業短期大学農業資源研究所微生物制御研究室教授。2006年、石川県立大学生物資源環境学部生産科学科教授。2017年4月客員教授。主な研究テーマに、エンドファイト(植物内生菌)を利用した病害虫・線虫防除法の確立、植物寄生性線虫の感染成立機構の解明、イネいもち病の感染成立と抵抗性発現の細胞学的解明などがある。研究分野は、植物保護学、植物病理学、植物・共生菌相互作用、菌学、超微形態。

センパイプロフィール



宮下 奈緒さん 博士後期課程 自然人間共生科学専攻 2015年3月修了 石川県中能登農林総合事務所

在学中は、「サツマイモネコブセンチュウの感染行動と防除」をテーマに研究。博士後期課程修了後、石川県中能登農林総合事務所に勤務。農業従事者への栽培指導、産地の状況や課題を説明し、対策をサポートする仕事を担当している。

座談会を終えて 就職して数年経ちましたが、学部の頃に考えていたことを振り返り、気持ちを新たにすることができました。

植松 繁さん 博士後期課程 自然人間共生科学専攻 2017年3月修了 石川県農林水産部生産流通課

在学中に「レンコンネモグリセンチュウの発生活態と防除」「イネカメムシの発生活態と防除」「イネいもち病の発生予測と防除」に関する研究に取り組む。在学中の研究を活かして、石川県農林水産部生産流通課に勤務。

座談会を終えて 就職してから忘れがちな新鮮な気持ちを思い出しました。今日は、ありがとうございました。



梅本 紗恵子さん 生産科学科 2017年3月卒業 JA全農いしかわ

◆ これらが楽しみ / 今年卒業した新卒の2人 ◆

古賀先生に「どれだけ失敗してもいいから、楽しんで研究しよう」と言われて、充実した研究ができました。今日は先輩方ともお話ができて、刺激になりました。

古賀先生の研究室に入って、楽しいことも悔しいことも学ぶことができました。今日は、第一線で活躍されている先輩方とお話できて嬉しかったです。



鈴木 優里さん 生産科学科 2017年3月卒業 石川県石川農林総合事務所

「バイオガス (メタンガス)」という言葉聞いたことはありますか?

生物資源工学研究所
環境生物工学研究室
環境生物学 馬場 保徳 助教



メタンガスでお湯をわかす

バイオガスは嫌気性微生物(酸素を苦手とする微生物)がメタン発酵により生ゴミや家畜排せつ物からつくるガスのことです。皆さんの家庭で使われている都市ガスの主成分でもあります。このメタン発酵ですが、実は植物性バイオマス(稲わらや葉っぱなど)からメタンを作ることを苦手としています。そこで、私達は様々な環境から植物性バイオマスを溶かしてくれそうな微生物を採取して、メタン発酵の効率化を目指しています。

私が描くゴールのひとつは、公民館のような場所に地域の皆さんが気軽にアクセスできるエネルギー基地を作ることです。例えば、公民館に落ち葉を持って行けば、都市ガスに変換できるような仕組みを作りたいと考えています。このような設備が近所があれば、災害時の避難所にもなりますよね。

興味を持った学生さん、一緒にやってみませんか。



未利用資源の
潜在性と
その魅力

食品科学科
食品安全系 食品衛生分野
西本 壮吾 准教授



試作段階のツバキ茶

超高齢社会を迎え、日本国民の人口に対する高齢者の割合は増加の一途をたどっています。残念ながら加齢を止めることは出来ませんが、自分の意思で加齢に伴う様々な疾患を予防して発症時期を延伸させ、結果的に健康寿命を延ばすことは重要であると考えられます。私達は、食品が持つ機能によって健康寿命の延伸を期待し、免疫学を基礎とした抗アレルギー、骨代謝調節、皮膚科学の3つの評価を研究の柱として掲げています。研究対象は脚光を浴びない未利用資源であることが多いですが、付加価値の新たな発見は、想像以上に好奇心を満たしてくれます。最近の研究で、ツバキ葉に含まれる成分が骨代謝を調節する働きがあることを明らかにしました。研究成果に裏打ちされた関連商品の開発が進められており、皆様の健康寿命の延伸に貢献できると期待しています。



2017.1.31

石川県立大学シーズ発表会inこまつ

～未利用資源の有効利活用～ in 小松市公会堂

この発表会は研究シーズを紹介し、企業や自治体などの皆さまに新たなビジネスチャンスを得る機会として活用していただくことを目的に開催しているものです。今年度二回目となる発表会は、初めて小松市で開催しました。

明和工業株式会社代表取締役の北野滋氏に「我が社の産学官連携」と題して講演していただき、本学4教員のシーズ発表会があり、活発な質疑も展開されました。発表のあと、産学官連携学術交流センター長の榎本教授が本学の「産学官連携の現状と課題」を報告しました。



「原尿処理過程で生成した希硫酸と鶏糞灰を組み合わせた資材の野菜栽培への有効利用」
生産科学科 村上 賢治 教授



「地中熱利用型農業への実現に向けて～地表-地中間の熱輸送装置の開発～」
環境科学科 百瀬 年彦 准教授



「食品廃棄物による保健効果の検証と付加価値化」
食品科学科 西本 壮吾 准教授



「微生物発酵による廃棄物(生ゴミ、紙ごみ、刈り草、ふん尿等)からのエネルギー生産」
生物資源工学研究所 馬場 保徳 助教

ISHIKAWA PREFECTURAL UNIVERSITY Report

S×T TALK!

Students Teachers

Theme

やみつき! フィールドワーク

Students

流域環境学研究室のみなさん

環境科学科

Teacher

柳井 清治 教授



石川の里山里海をフィールドとして、さまざまな研究に取り組む流域環境学研究室のみなさんに、フィールドワークの醍醐味をお聞きしました。

柳井/我々はいろいろな場所でさまざまなフィールドワークをやっている。アメリカから帰国したばかりの荒川君から話を聞いてみようか。

荒川/僕は能登半島で絶滅危惧種のヤツメウナギの研究をしています。アメリカにはヤツメウナギの研究所があり、先進的な研究が行われています。

柳井/向こうではワシントン州の大平原を流れるコロンビア川で研究したんだよね。

荒川/コロンビア川でも日本と同様に用水路や外来種の問題が起きていて、地元の高校生と一緒にヤツメウナギの放流を行ったりしました。



カワヤツメ

村上/僕は、アカテガニの生態を調べています。アカテガニは通常、大人になると陸に棲みますが、子どもの間は海に棲息しています。研究では、金沢市を流れる犀川の河口付近をフィールドとして、アカテガニが成長して陸に上がってくるまでの過程を明らかにしようとしています。

秋山/石川県で絶滅危惧種になっているホクリクサンショウウオの調査をしています。子どもの頃は民家の近くでも見かけた生物でしたが、最近は見かけることがありません。実際、調査に行っても人里離れた森のような場所にいかなければ見つけれませんでした。



ホクリクサンショウウオ

横田/3年の時に先輩と一緒に白山に登り、地すべりが発生した別当地区で植生調査を行いました。百聞は一見に如かずで、実際に現地を見なければわからないことがあることを知りました。調査に行くのは楽しい反面、対象が山なので危険も伴います。でも、山に行くたびに人として成長した実感もあります。

全員/良いこと言うなあ(笑)。

柳井/フィールドワークは確かに危険なこともある。クマに遭う、ハチに刺される、それからマムシ……。もちろん、良いものを見かけることもあるよね?

荒川/能登半島の景色。自然が豊かで貴重な生物が居る場所は景色も雄大。自然に癒されながら研究しています。

村上/最近、イノシシやウサギの糞を発見しただけでも、近くに動物がいる感じがして、面白い。

柳井/アカテガニを研究していると、夕方になると親ガニが川岸にやってきて子どもを海に放すシーンが見られる。あれは感動しない?

村上/そうですね。子どもが育つように親が子を海に放すと、煙みたいになっちゃうと広がっていきます。

柳井/一瞬だけ面白い場面に出会うと病みつきになるよね。僕はもともと北海道にいて、山や川で調査をしてきた。みんなにも森や川で調査して、自然を見て感動してもらいたい。感動は研究の原動力になるから。

秋山/以前、みんなでサクラマスの産卵を見に行き、この研究室で良かったと思いました。サクラマスが産卵のために川底に掘った穴、穴を掘るために傷だらけになった様子……。なかなか見られない光景でした。

柳井/でも、大学から車で10分ほど行くといふんだよね。アカテガニが海に放される様子も金沢で見られる。みんな知らないけれど、石川には隠された自然がある。もちろん、外で観察するだけではわからないこともあるので、実験室で実証することも必要だけれど。

村上/僕は、卵を孕んだカニを持ち帰って水槽などで飼育し、どのように成長していくのかを観察しています。0.7mmくらいの子どものカニが大きくなり、ゾエア、メガロパとなり、大人のカニと同じになるまで育つと感動します。

柳井/これまでも研究室でやってきたことだけれど、初めて成功したからね。

荒川/僕はヤツメウナギを人工授精させています。正直言って、水産大学じゃないし、基礎知識のないことだけれど、研究の一部に必要なので他分野のことも勉強してやっています。自然との関わりがわかってくると、実地調査がさらに面白くなってくる。

柳井/我々の研究には周期があるので、一年中同じことができない。春、夏、秋、冬と決まっているので、その周期で失敗すると1年やってきたことがムダになってしまう。ヤツメウナギの人工授精では、受精に成功して卵に膜ができると、あれは小宇宙だね。

荒井/それから卵割して、膜を破って動き始めて……。

柳井/これを自分の目でみると感動するね。

荒井/人工授精をするのは、サケやマスのように個体数を増やしたいのも理由の一つですが、実験に必要な個体数を自分で確保したい理由もあって。

柳井/大事にしたいのは、ヤツメウナギの稚魚を増やして地域に戻すこと、子どもたちに放流してもらうなどして、地域との関わり合いを大事にしたい。

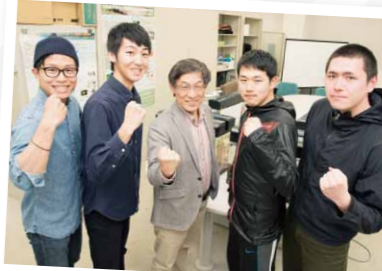
横田/僕は、先輩にGIS(地理情報システム)を教してもらって感動しました。地すべりと言っても、実際に見たことない人は想像がつかないと思うけれど、GISを使うと部屋の中にも鮮明にわかって驚きました。

秋山/3年のときに水生昆虫の勉強をしましたが、実は虫とか好きじゃなかったんです(笑)。水生昆虫は魚の餌になり、川の現状を知るうえでも大事な生物。ホクリクサンショウウオの調査に行った時、学んだ知識が役立ちました。

柳井/この研究室は、流域環境が研究対象。それぞれフィールドは違うけれど、山から川、そして海につながるまでの流域の中の生態系について研究している。

全員/この面白さを知っちゃうと、離れられないよね〜(笑)

流域環境学研究室のみなさん
左から
荒川 裕亮さん
横田 健一朗さん
柳井 清治 教授
秋山 智唯さん
村上 隆也さん



平成28年度卒業式・学位授与式を挙りました

熊谷学長から、卒業生・修了生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。在校生を代表して白鳥花奈さん(食品科学科3年)が送辞を、卒業生・修了生を代表して古田凧さん(生産科学科)が答辞を述べました。その後、学長賞の表彰も行われました。(以下のとおり)

卒業生・修了生		学長賞	
学部	生産科学科 41	生産科学科	古田 凧
	環境科学科 44	環境科学科	福岡 幹也
	食品科学科 45	食品科学科	平野 里佳
大学院前期課程	生産科学専攻 1	食品科学専攻	山瀬 理恵
	環境科学専攻 2	応用生命科学専攻	奈良 未沙希
	食品科学専攻 10	社会貢献活動	ポケットゼミ ヒツジ
	応用生命科学専攻 3		
大学院後期課程	自然人間共生科学専攻 3		
	生物機能開発化学専攻 1		
合計150			

総代生に聞きました!

古田 凧さん 生産科学科 卒業 総代生・学長賞受賞 学長賞受賞理由(成績優秀者)

①今の心境を漢字一文字で表すと?

開

②1の理由は? この大学に入って初めて経験したこと、またこの大学でしか経験しないことを通じて自分の中にあるものが開花された。

③勉強を行うとき、モチベーションを保つ秘訣は?

勉強しなければ単位を落とすことになり自分にとって良くないことが起きるといふ恐怖心から勉強に打ち込みました。それが結果的に成績アップにつながりました。

④在学中一番心に残っていることは?

小学生の頃に読んだ図鑑で「植物培養」に興味を惹かれたことで入学しました。卒業研究ではその研究分野に携わることができ、夢がかなったことです。

修了生にきました!

西山 駿さん 博士後期課程 自然人間共生科学専攻 2017年修了 職業:石川県農林総合センター 農業試験場 砂丘地農業研究センター

西山さん(右)と植松さん(左)

①今の心境を漢字一文字で表すと?

謝

②1の理由は? 指導教員である岡崎先生や親などへの感謝の気持ちです。岡崎先生には世界レベルの基準で、研究・教育を指導していただき、鍛えられたからこそ、1年短縮して博士号を取得できました。親には学費の面で援助してもらいました。

③働きながら学位を修得するのは大変だったと思うが、どのようにモチベーションを保ったか? 2017年度末をもって岡崎先生が退官されるので、関わりをもてる最後のチャンスだと思ふことで、研究に励むことができました。また、自分の研究成果を形(論文)に残したいという思いが強かったです。

④在学生に一言。

研究がおもしろいと思つた人は院に進むべきです。大学生活の中では、研究室に分属されてからが一番いい時間だと思います。しかしその時間は短いので、院へ行って研究を続けてほしいです。また、年齢的にも客観的に物事をみることで、学部生のときは違う視点でたくさん経験を積みます。

学長賞を受賞!

平野 里佳さん 食品科学科 卒業 受賞理由:成績優秀者

①今の心境を漢字一文字で表すと?

学

②1の理由は? 食品の専門的な知識を学んだからです。自分の学んだことが将来、世界のこの分野の発展に繋がればいいなと思うからです。

奈良 未沙希さん 博士前期課程 応用生命科学専攻 2017年修了 受賞理由:世界的に権威のある国際会議である「2015年ゴードン研究会議」でポスター発表に採択

①今の心境を漢字一文字で表すと?

支

②1の理由は? 指導教員や同じ研究室の皆さんの支えがあったからこそ、修了することができました。

嬉

③働きながら学位を修得するのは大変だったと思うが、どのようにモチベーションを保ったか? 先生の熱意にひっぱってもらいました。また、研究課題が仕事と同じ分野だったので、研究に打ち込みやすかったです。

④在学生に一言。

大学院は、研究や学問のことだけでなく、自分の可能性を大きく広げることのできる場所だと思います。少しでも興味のある方はぜひチャレンジしてみてください。

農学を通して、とっておきの青春時代を楽しもう。石川県立大学には、豊かな学生生活を叶えるいろんなイベントがいっぱい!

卒業生の活躍

加工品のセレクトショップをオープン!

正田 明日香さん(環境科学科 第1期卒業生)



大学卒業後、大手電機部品メーカーに就職しましたが、農に携わる仕事がしたいと思い、農家助成を経て地元の和歌山で起業しました。現在は地元農家が作る加工品のセレクトショップを運営しつつ、次に向けて色々な可能性を探っています。起業という大げさですが、私の場合は自分のやりたいことを突き詰めた結果だと思っていて、大学時代は国際交流活動への参加や部活の立ち上げなど好きなことをし、会社員時代は仕事もそこそこ、休日は興味のあるところへ出かけました。結局は経験、人脈を含めたその全てが今に繋がりと、役立っています。面白い、楽しいと思う感性を大切に行動することが、やりたいことを見つける方法の一つかなと感じます。悩んでいる学生さんにはおすすめです。

くたちshop+cafe
和歌山市出口甲賀丁38-2
tel.073-460-8137



本学学部生が第6期トビタテ生に選ばれました

本学環境科学科3年大西泰歩さんが「トビタテ! 留学JAPAN地域人材コース石川プログラム6期生」に選ばれました。これまでも第4期生として2名、第5期生として3名の学生が同コースに選ばれ、それぞれの留学計画を達成しております。

大西 泰歩さん(環境科学科 3年)

「石川県を野生動物の保護・管理でハイレベルにするための留学計画」

平成29年8月10日~10月10日

留学先:ネバダ州野生生物局(アメリカ合衆国)

クマなどの野生動物と人の軋轢を解消するための知識・技術を学び、生物保全へ取り組み能力を向上することを目的としています。

谷本石川県知事(右)を表敬訪問した大西さん(左) (平成29年3月21日)



今年はオリエンテーションが変わった!

新入生オリエンテーションに密着!

昨年までは入学式後に二日間にわたって行っていたオリエンテーション。

今年は新入生が少しでも早く大学になじめるように、入学式の前日にオリエンテーションを開催しました。入学式後の二日間では、新入生の悩みのタネ「履修計画」について先輩サポーターと一緒に計画を行うなど新生活の不安を軽減する取り組みを取り入れました。

アイスブレイキングとは緊張した場を崩し、雰囲気をつよく和やかにすることです!

8:15 新入生のみなさんをセンパイがお出迎え



センパイよりも良い経験になった

8:30 受付



9:00 アイスブレイキング



新入生よりアイスブレイキングでいろんな人と仲良くなることができた!

10:00 キャリア検討会



入学時の想いを語り将来の目標を設定します

11:00 キャンパスツアー



新入生より先輩が優しく説明してくれてとてもわかりやすかった

12:00 昼食



新入生より大学生活の不安が和らいだ

13:00 大学クイズ



13:30 抽選会



14:00 サークル紹介

15:00 終了

センパイより新入生と関わることができて自分達にとってもプラスになった!

新入生オリエンテーションスケジュール

- 4/4 (火)
 - アイスブレイキング
 - キャンパスツアー
 - キャリア検討会
 - 大学クイズ・抽選会
 - サークル紹介
- 4/5 (水) 入学式
- 4/6 (木)
 - 履修ガイダンス
 - 履修計画作成
- 4/7 (金)
 - 各種お知らせ
 - 消費生活トラブル
 - 健康診断

センパイより去年、先輩達にお世話になったので恩返しできて嬉しい

平成29年度入学式を挙りました

新入生を代表して食品科学科・達さやかさん、応用生命科学専攻・平野里佳さんが「大学の教育方針をよく理解し学業に励む」旨を宣誓しました。

新入生

生産科学科 48名	大学院前期課程	環境科学科 2名
環境科学科 47名	生産科学専攻 2名	食品科学科 3名
食品科学科 42名	環境科学専攻 2名	
	食品科学専攻 6名	
	応用生命科学専攻 8名	

編入生

環境科学科 2名
食品科学科 3名
大学院後期課程
自然人間共生科学専攻 1名

Club Activities

今回の表紙の顔はこの人たち!

N-project 活動の可能性は無限大!自分のやりたいことを生かせる場所、それがN-projectです!

活動歴:2014年3月設立
部員数:20人(うち石川県立大学生は10人)
活動内容:

- 毎週水曜日に金沢学生のまち市民交流館での会議
- 能登(志賀町)での農作業
- 能登(能登町)での酒造り
- 金沢の小売店様での販売応援
- イベントの主催など

